

台湾の近代化に尽くした八田與一

烏山頭ダムと16000^キの灌漑用水路を建設

「不毛の大地」を一大穀倉地帯に変貌させる

孫の八田修一さん（昭和56年法学部卒）が語る祖父像は――

台湾で最も尊敬され、愛されている日本人――その名は八田與一（はった・よいち、1886～1942）。日本統治時代の台湾で農業水利事業に多大な功績を残し、「日台友好の架け橋」となった日本人だ。その八田與一の孫が本学卒業生であることがわかり、記者は名古屋市に在住する八田修一さん（昭和56年法学部政治学科卒）を訪ね、祖父にあたる與一にまつわる話をうかがった。

八田修一さんは、名古屋市近郊の最寄りの駅までわざわざ記者を出迎えてくださり、ご自宅に案内してくだされた。八田さんは、與一の長男、晁夫（てるお）さんの子息で、與一の孫だ。東大卒の土木技師であった父・晁夫さんは、3年前に亡くなられた。

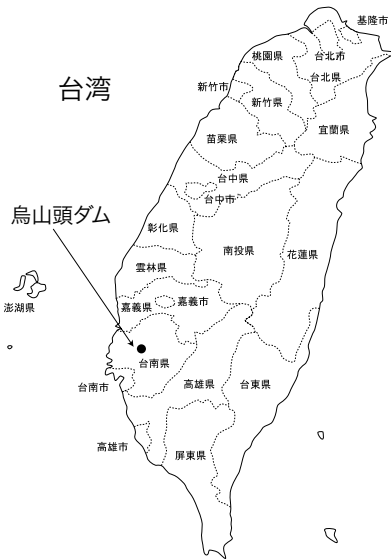
「お話をする前に、祖父の功績を

伝えるビデオを見てください」と修一さん。それで、まずビデオを見てから、話をうかがうことになった。

工期10年かけ巨大ダム建設

八田與一は、1986年（明治19年）に金沢市に生まれ、東京帝国大を卒業し、土木技師として台湾に

渡り、56歳で亡くなるまでほぼ全生涯を台湾で過ごし、台湾のために尽くした。15万ヘクタールと台湾最大の広さの嘉南平野は当時、雨季には洪水、乾季には干ばつ、海岸近くでは



塩害によって農作物が育たない「不毛の大地」だった。

そこで與一は、巨大ダムの建設に着手する。工事は、コンクリートをはじめど使わないセミ・ハイドロリックフィル工法という手法で行われ、10年の工期（1920年～1930年）を要して、烏山頭ダム（有効貯水量1億5000万立方メートル）を完成した。また嘉南平野一帯に16000kmにわたって水路をめぐらし、台湾最大の穀倉地帯に変貌させた。

その後、烏山頭ダムには、功績を称えて與一の銅像と、與一と妻・外



祖父・與一の肖像画を掲げる八田修一さん

代樹の墓が建てられ、毎年、與一の命日の5月8日には現地の農民らによって墓前祭が行われている。昨年、引き続き今年の墓前祭に参加した台湾の馬英九総統は、與一を称える記念の公園を建設することを明らかにしている。

與一は、没後67年を経てもなお、「日台友好の架け橋」となっているのだ。

父・晃夫氏は台湾が故郷

修一さんは、「父の晃夫は、祖父については何も聞かせてはくれなかったんですよ」という。「叔母たちからは、『お祖父ちゃんは偉かったんだよ。台湾でダムをつくったんだよ』とは聞いていたんですけど、親父からは聞いていなかったです」。

修一さんが、初めて台湾に行ったのは中央大学2年のとき。「親父に連れて行ってやる、と言われて行ったのですが、現地の人に神のように慕われていると言われても、眉唾で嘘くさいな、と思っていた」と当時を振り返る。

このときも、「親父からは、特に祖父について説明はなかったです」という。台湾生まれの晃夫さんは、「第一の故郷が台湾。まるで桃源郷のようだった」と懐かしそうに台湾での生活を振り返っていたが、祖父のことは何も言わなかった。

修一さんが、與一の功績について深く知るようになったのは、「3年前に父が亡くなってから」という。毎年5月8日の墓前祭に参加していた晃夫さんの後を継ぎ、修一さんは2007年から墓前祭に初めて参加するようになった。

墓前祭で祖父の偉大さ知る

「墓前祭に参列されている人の多さに驚きましたね。200人以上の人が参列していたんです。本当に台湾の地元の方々に愛され続けているんだな、と実感しました」と修一さん。「1942年に亡くなってから60余年経っても慰霊祭をやるなんて凄なことだな」と與一の偉大さを肌で感じたのだった。

與一は土木技師として優れていたが、優れた人格者としても慕われた。烏山頭ダムの建設工事中には、事故などで多くの人が亡くなった。その家族もマラリヤ、チフスなどの伝染病に罹り、多数が亡くなった。13



台湾の地に建つ八田與一の銅像の前で

4人のその人たちがを弔うためにダム
完成後に殉工碑がつくられ、その碑
文を與一が書いた。殉工碑には名前
が亡くなった順に刻まれている。そ

こには日本人、台湾人の区別は全く
ない。
「祖父は今でいうグローバルな考
えを持っていた人だったんだな、と

思います。人類はみんな平等であり、
日本人だろうと台湾人だろうと肩書
や民族の違いは関係ない、という精
神を持っていたんだと思います」と
修一さんは言う。

與一の功績はダムを建設しただけ
ではない。ダムの水を有効に利用す
るため、3年輪作（農地を3つに区
分けてそこに水稲、さとうきび、
雑作物を1年ずつ繰り返し耕作して、
それに合わせて給水する方法）と
いった農法を提案して農民に実践さ
せた。また水路を農民に平等に利用
させるため農業用水水利会をつくり、
水路を管理させた。

「日本精神」を体現した與一

5月8日の墓前祭は、その地元の
水利会によって毎年行われている。

中国には「飲水思源」という諺がある。
「水を飲めば、その源を思え」とい
う意味である。台湾の人々はその言
葉の通り、與一に対する感謝の気持
ちを忘れてはいない。

與一が、今でも台湾の人から愛さ
れているのは烏山頭ダムを建設した
からという理由だけではない。明治
大正の日本人がもっていた人のため
なら自分の損得を忘れて公に尽くす、
という精神を体現した人物だからだ。

修一さんは、己を忘れ、台湾の人々
のために仕事に励んだ與一の「生
き方がすごい」と感じている。だが、
現代の日本人を振り返ってみて、修
一さんは最後にこう指摘した。

「台湾元総統の李登輝さんは、與
一について『人間いかに生きるべき
か』という哲学や理念を教えてくれ
た、と言っています。それは『公』に
奉ずる精神、伝統的な価値観であ
る『公議』、そして口先だけじゃな
くて実際に真心を持って行う『率先
垂範』『実践躬行』といった日本精
神です。私もこの日本精神を思い起
こしたいと思います」

（学生記者 伊藤知広 経済学部4
年 / 上田雄太 文学部4年）